

感染性胃腸炎が大流行！

感染性胃腸炎とは？

感染性胃腸炎とは、細菌、ウイルス、寄生虫など多種多様の病原体に起因する胃腸炎で、発熱、下痢、悪心、嘔吐、腹痛などを来します。

特に、2006年度は感染性胃腸炎の発生が過去最高であり、当初西日本を中心としていた流行が、中部・関東地域にも拡大する勢いです。

ノロウイルスとは？

ノロウイルスは冬の胃腸炎の主な原因となります。牡蠣の生食による食中毒以外に、風邪のようにヒトからヒトへも感染します。潜伏期間は1～2日程度と考えられています。一般に症状は軽く、治療を必要とせず軽快することが多いのですが、乳児や老人では重症化することもあります。

感染を予防するには？

ノロウイルスは牡蠣などの貝類の中で濃縮され、ヒトの小腸内で増殖します。ウイルスは熱に弱いので、十分に加熱した食材であれば問題ありませんが、サラダなど加熱調理しない食材や、汚染された貝類を調理した手や調理器具からも感染する可能性があります。また、患者の吐物や便も感染源として重要です。患者自身の手指や衣服にもウイルスが付着している可能性があります。このため、流水・石鹸による十分な手洗いを徹底しましょう。

発症したら？

ウイルスの増殖を抑える薬はありません。嘔吐や下痢による脱水症を改善するために十分な補液と、整腸剤や吐き気止めなどの対症療法が主となります。

(文責 平木場)